

(声明)

アメリカとイスラエルはイランへの攻撃を直ちに中止せよ

2026年3月3日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

代表世話人 中川武夫

原 和人

向山 新

天谷静雄

米国とイスラエルは2月28日、イランへの先制攻撃を実施したと発表した。また、翌3月1日、イラン国営メディアはイランの最高指導者ハメネイ師が空爆で死亡したと報じた。

核問題の外交的解決をめぐる米イラン協議が続いていた最中の大規模な軍事攻撃の開始は、これまでの外交努力を無にするものであるばかりか、国連憲章と国際法違反の先制攻撃であり、断じて許されない。また、主権国家の指導者を一方的に殺害したことは、いかなる理由があろうとも許されない。

米トランプ政権はイスラエルとともに、イランに大規模で継続的な攻撃を行うとしており、同時にイラン国民や反体制派に対して体制転覆を呼びかけている。一方的な武力の行使により、独立した主権国家の体制を転覆させようとする行為は、中東・西アジア地域にさらなる不安定をもたらすだけでなく、世界の平和に深刻な影響をもたらすことは明らかである。アメリカとイスラエルは、直ちに軍事行動を中止するべきである。

こうした事態に対して、木原稔官房長官は、3月1日未明の記者会見で、核開発を巡る米イラン間の協議について「イランの核問題解決に極めて重要であり、わが国として強く支持してきた」と述べる一方、「イランは核兵器開発および地域を不安定化させる行動をやめるべきだ」「わが国は詳細な事実関係を把握する立場にないことから、確定的な法的評価を申し上げることは差し控える」と発言するにとどまり、アメリカとイスラエルの軍事行動を批判しなかった。日本政府として、アメリカとイスラエルによる先制攻撃に対して明確な批判をするとともに、平和的解決を求めるべきである。

同時に、イランは核兵器の開発を中止するべきであり、イランの核施設はIAEAの完全な監視の下に置かれるべきであることを付言する。

私たちは、生命と健康を守る医師・歯科医師の立場から、今般のアメリカとイスラエルによるイランへの先制攻撃に断固として抗議し、攻撃の即時中止を要求する。

以上